

機器分析室の状況

駒井 慎一*

名古屋大学工学部・工学研究科技術部

はじめに

機器分析室の概要については、既に技報(Vol.4)で報告したので、その後の状況について簡単に報告する。

構成

室長：後藤繁雄教授（平成14年4月～） 幹事：松本幸三助手

技術職員：駒井慎一、調子晴久、近藤一元、永田陽子

桜井幸夫、羽多野重信、伊藤 始

1. 機器の配置変更

機器分析室西側に平成14年度（平成15年3月）に700MHz、500MHz核磁気共鳴装置が配置された。700MHz核磁気共鳴装置については、発生磁場の周辺機器及び環境への影響を基準（5 Gauss）以下になるよう機器分析室西側を磁場シールドのためパーティションで分画。

このため、図1から図2の機器配置に変わり、レーザーラマン分光光度計と強力X線発生装置は工学研究科1号館109室、LC-MSは工学研究科1号館928室に移動した。

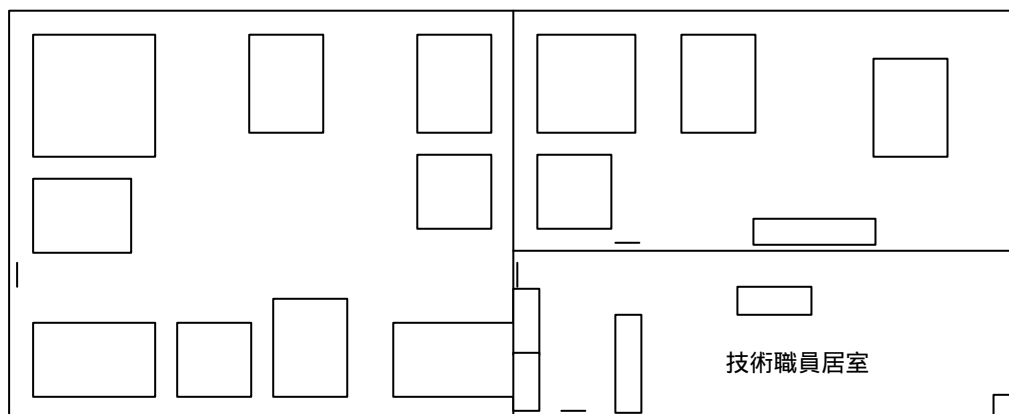


図1 平成13年度機器分析室機器配置図

強力X線回折装置 蛍光X線分析装置 高周波プラズマ発光分光分析装置
X線光電子分析装置 粒度分布測定装置 X線回折装置
雰囲気制御原子間力顕微鏡 蛍光顕微鏡 CDスペクトロメーター
LC/MS レーザーラマン分光光度計 元素分析装置
単結晶X線解析装置 大型プリンター

*分析・物質技術系

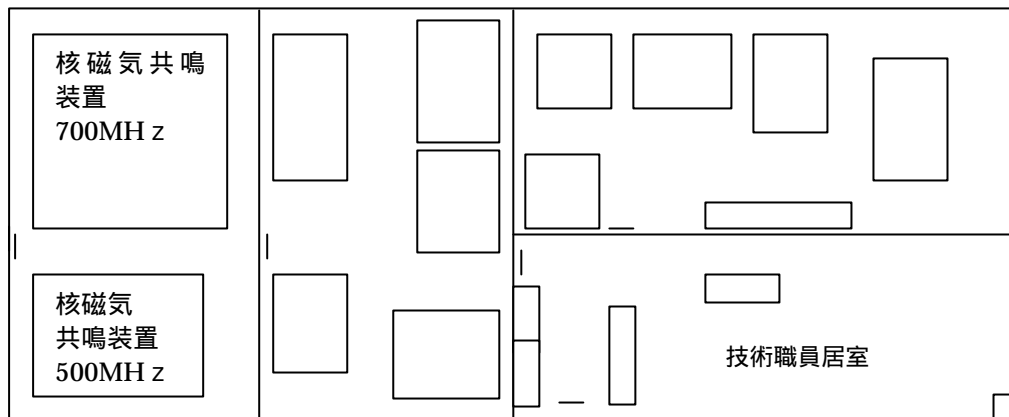


図2 平成14年度機器分析室機器配置図

蛍光X線分析装置 高周波プラズマ発光分光分析装置
 X線光電子分析装置 粒度分布測定装置 X線回折装置
 雰囲気制御原子間力顕微鏡 蛍光顕微鏡 CDスペクトロメーター
 元素分析装置 単結晶X線解析装置 大型プリンター

2. 機器分析室ホームページ(HP)の開設

工学部・工学研究科のホームページ上に機器分析室HPを載せた。

各機器の担当者から機器説明や利用手順をとりまとめ、伊藤始技官が機器分析室HPを作成した。現在、機器分析室HPのメンテナンスは千代谷一幸技官が担当している。機器分析室HPが開設された事により、HPを見ての分析機器の問い合わせも増えている。

3. 技官の常駐

平成14年4月から、近藤一元技官が機器分析室に常駐。

4. カードキーリーダーシステムの導入

機器分析室は、工学部・工学研究科共通施設であるので不特定多数の人が利用する。

そこで、入室者管理のため、登録者のみが入室できるシステムを原子核技術室に依頼し、増田俊雄技官がカードキーリーダーシステムを作成。

機器分析室利用者は、職員証、学生証等の個人番号を登録し、職員証、学生証等をカードキーとして使用する。また、利用者の入室はパソコンで記録している。

5. 利用状況

各機器の利用状況等は、機器分析室拡大技術委員会で報告。

機器によって利用状況が異なるが、レーザーラマン分光光度計、粒度測定装置、元素分析装置については、化学系以外の材料系、電気系等の分野からの利用もあり、年々利用者は増えており、また、学会発表用ポスターの製作する利用者等で、大型プリンターの利用も増えている。